

平成28年度 第2回にしお男女共同参画市民会議 会議報告書

日時	平成29年3月10日(金) 午後1時30分～午後4時15分	
場所	西尾市役所5階 53ABC会議室	
委員	出席者	にしお男女共同参画市民会議委員：赤堀正光始め10名 アドバイザー：中京大学法科大学院 専任教授 柳本 祐加子氏
	欠席者	-
事務局	木下、都築	
傍聴人	1名	
その他	庁内男女共同参画推進委員会ワーキングチームスタッフ13名	

あいさつ…市民会議 加藤晴子会長

※会議公開に関する件・・・会議は公開である旨報告（平成25年6月28日の会議で決定）

1 配布資料の説明と柳本教授による考察（13：40～14：00）

講師：中京大学法科大学院 専任教授 柳本祐加子 氏

2 ワークショップ（14：00～16：15）

■会議概要

本市における男女共同参画の推進は、平成26年3月に策定した「第2次西尾市男女共同参画プラン」に基づき、関係各課が各種事業に取り組んでいる。また、平成28年4月に完全施行した「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（以下、女性活躍推進法）」により、職業生活における女性の活躍をより一層推進していく取組に期待が高まっている。

第2次プラン策定から間もなく3年が経過し、国内外の動向や社会経済情勢の変化に対応した施策の推進を図るため、また、女性活躍推進法に基づく市町村推進計画としても位置づけるため、平成29年度、30年度の2か年で、第2次プランの見直しを図る。

第2回市民会議では、第2次プランの見直しを見据え、現行プランの進捗状況や市政世論調査の結果、また、国・県の計画内容等を勘案し、男女共同参画の視点から、本市が、今後、優先的、重点的に力を入れて取り組むべき課題や施策が何かについて、市民会議委員と行政職員が一緒に考え、情報共有を図る。

なお、今回は、市民と行政との協働に視点を置き、市民と市職員が同じ課題を解決するために意見交換、情報共有をしやすいようワークショップ形式で行った。

1 配布資料の説明と柳本教授による考察

〈配布資料の説明〉

- 資料1 「第2次西尾市男女共同参画プラン進捗状況調査結果」及び「第2次西尾市男女共同参画プラン進捗状況一覧」について

「第2次プランに係る施策の進捗状況調査」をワーキングチームスタッフを中心に行った結果、「第2次プランの趣旨に沿った事業展開ができた、ある程度できた」と評価している事

業が多く、各課における施策目標を概ね達成している状況となっていることがわかる。

○資料2「市政世論調査結果（抜粋）」について

昨年8月、市政に対する市民の皆さまの考えや要望を幅広く収集し、市政に反映することを目的として、無作為抽出した20歳以上の市民3,000人を対象に、市政世論調査を実施。その中で、「男女共同参画社会の意識」について調査したところ、「男女共同参画社会」という言葉やその意味を知っていると回答した20歳代（若年層）が多いことがわかる。

また、女性の活躍や男性・女性にとっての仕事と家庭のあり方については、約8割の市民が、社会制度や職場環境の整備が必要であると同時に、社会全体の意識改革が必要であると考えていることがわかった。

以上の調査結果も踏まえ、市民会議では、「男女共同参画の視点を取り入れ、本市が、今後、優先的、重点的に取り組むべき課題や施策は何か」について、「市民の立場」と「行政の立場」という2つの側面から考えた。

〈柳本教授の考察〉

- ① 多くの人が、「意識を変える事が必要である」と感じているものの、人々の意識の中には、固定的な性別役割分担意識が未だ根強く残っている。それは、なぜか？
- ② 市政世論調査で、「男女共同参画社会という言葉を知っているか」という設問について、年齢別で見ると、20代の6割が「意味も知っている」と回答しているのに対し、30代以上は、その約半分の数字となる。その訳は何か？学校での教育の問題か？ネット社会により、グローバルな情報社会の影響か？
- ③ 人口減少、少子高齢社会の進展が進む中で、「子育て支援」と「高齢者介護」という大きな2つの問題がある。家庭生活をより良くするためには、社会全体でどう支えて（補って）いくのか？西尾市が抱えている困難さは何か？

上記の結果も踏まえつつ、第2次プランの進捗状況調査の結果から、今後、西尾市が重点的・優先的に取り組むべき課題や、その課題を解決する方法などを考察し、より具体的な施策を導き出し、第2次プランの見直しに反映していく。

〈獲得目的〉西尾市として、今後、優先的、重点的に取り組むべき課題等を導き出す。

2 ワークショップ

◎ステップ1

第2次プランに係る施策の進捗状況調査の評価では、どの課も、取り組んできた事業に対し高く評価している傾向にある。しかし、市民がこの結果を見た時、果たして評価どおりのサービスが提供されているだろうか？

市民の感覚と行政が評価する内容にズレが生じていないか？ズレがあるとするならば、その理由は何か？また、そのミスマッチを解決するための方法は何か？を参加者で考える。

◎ステップ2

日常生活を営む上で、最も重要な施策や課題が何かについて、第2次プランの進捗状況調査の結果を踏まえ、第2次プランの7つの基本目標の各施策の中から、市民目線で考え、実現されたら良いと思う施策を、各グループ3つ程度抽出。また、その取組を進めるためには、具体的に何をしていけば良いのか考えた。

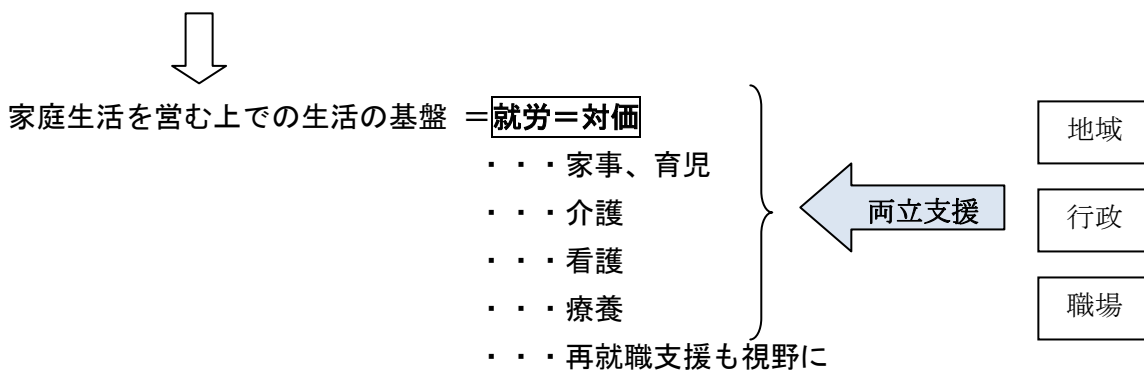
各グループの意見から導き出された結果

“男女がともに 心豊かに暮らせるまち にしお”を実現するためには・・・

考え方の中心に【家庭生活をより良くするために】という意識が存在している

= 母親が元気な家庭=生活の中心がお母さんという意識 =西尾市らしい考え方？

※子どもができたら仕事を辞め、子育てが一段落したら、再就職するパターン多々ある



■市民が本当に求めているニーズは何か？

■市民が行政に抱く不満の原因は何か？

⇒ どのような視点で調査すれば、市民の生の声が拾えるか？

⇒ 実態調査の際、質問内容（聞き方）を検討する必要がある。

【まとめ】

世間や私たちの意識の中には、性別による役割分担意識が根底にある。男性、女性にかわりなく、全ての人が幸せに暮らすことは当たり前で、社会で男女がどのような協力ができるかということを目指すことが大切。

西尾市における得意分野（産業振興、観光振興、商業振興など）の中で、核となる事業に絞り、掘り下げていくこともひとつではないかと感じる。いずれの分野においても、現状が変わらなければ、それぞれの個性と能力を生かし、多様な人材が関わり、新しい発想は生まれず、意識変革は起きない。「男性」、「女性」という性差でなく、それを越えて社会全体で支

え合う、性別にとらわれない「役割分担」という意識を理解してもらうことが重要。

プラン改訂の基礎資料とするため、29年度に意識調査を実施するが、その現状を受け止め、国、県のプランを踏まえつつも、今やれることから、市民が身近に感じる、西尾市の身の丈にあった施策に取り組むべきではないかと感じる。

女性の活躍促進については、「女性が男性並みにバリバリ働く」というイメージを持たれがちである。考え方の中に、女性を男性に近づけようとしている感があるように感じる。そうでは無く、男性と女性、それぞれの特性が生かされる社会になるよう考えていきたい。

第2次プランには、7つの基本目標がある。それに対し64の施策があるが、該当する課が重複していることから、全体では106の施策が実施されている。しかし、各課の横の連携が希薄であると感じることから、基本目標と施策の趣旨を踏まえた事業の整合性が保たれているかは疑問を感じる。また、プラン改訂の際には、「DV防止」や「多様性」というキーワードも出てくると予測するため、時代に即した具体的な施策や緊急度の高さなどを十分検討し、改訂版に反映させる必要がある

プランの要点が市民にわかりやすく、市民と行政の役割や責務などを明確に示し、西尾市としての男女共同参画を推進するための具体的な約束書と位置づけ、実践的な改訂版にしたいと考える。